

令和4年度第1回
第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会
会 議 要 録

令和4年9月2日（金）

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

日 時 令和4年9月2日（金）午後2時から午後4時4分
会 場 武蔵野市民社会福祉協議会 会議室
出席委員 宇田川みち子、大屋朋代、熊田博喜、田中邦忠、千種豊、深田榮一
事務局 秋山常務理事、田村事務局長、岡田係長、三藤係長、横山係長、片居木主任、
林主任、後藤主事、実習生3名

（午後2時 開会）

1 開会

○事務局長 本推進委員会はこれまでの活動計画にはなかった進行管理をお願いしており、今年度で3年目となります。昨年度は、進捗管理が定型化されていない中で、基本目標の各取り組みのステップ1についてご議論いただき、活動者が次に進む糧となるような応援メッセージを頂戴しました。今年度はステップ2の最終年度となるため、ステップ2の振り返りをお願いいたします。

2 委員長挨拶

3 委員紹介

- 各委員自己紹介 （略）
- 事務局職員紹介 （略）
- 実習生紹介 （略）

4 委員会傍聴について、議事録の形式及び取扱いについて

- 委員長 「委員会傍聴について」と「議事録の形式および取扱いについて」、事務局より説明をお願いします。
- 事務局 資料の1ページ目と2ページ目をご覧ください。こちらは前年度の委員会で確認いただいたものと同じため、再確認となりますが、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会傍聴基準第2条に基づき、「原則公開」とします。傍聴者は2週間ほど前に本会ホームページや Facebook で募集を行いました。今回は0件でしたが、第2回の委員会でも同様に募集します。また、議事録の形式および取扱いにつきましては、後日議事要録を市民社協のホームページ等で公開させていただきます。併せて今回の委員会の様子も撮影させていただき、Facebook 等で報告いたしますので、掲載されたくない方はお申し出ください。
- 委員長 委員会の傍聴と議事録の形式の二点についてご報告いただきましたが、まず一点目の委員会の傍聴は昨年度と同じということでしょうか。委員のみなさまから特別ご意見がなければ昨年度と同様の委員会傍聴でお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。

＜委員承認＞

- 委員長 それでは、委員会傍聴は事務局提案とします。議事録はホームページに掲載される際は委員長と副委員長の名前は公開ということでしょうか。
- 事務局 その通りです。それ以外の方は「委員」「事務局」のように名前を公表しない形で公表いたします。

○委員長 委員は、個人の特定がされないので、公開されることを気にされなくて大丈夫かと思っておりますので、昨年度と同じ扱いでいかがでしょうか。

＜委員承認＞

○委員長 それでは委員会傍聴と議事録の取扱いについて承認をいただいたということで進めてまいります。

5 議事

(1) 推進委員会のスケジュールについて

○事務局 資料3ページ「推進委員会スケジュール」に基づいて説明（略）。

○委員長 事務局より推進委員会のスケジュールについて、今年度及び今後の進め方について報告いただきましたが、ご質問はありますか。

＜委員承認＞

○委員長 6年計画のため、基本的には2年ごとに各ステップの振り返りをするものとなりますが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ステップ1の振り返りがずれ込んだという状況があります。新型コロナウイルス感染症による行動制限等が落ち着いてきたこともあるため、しっかりと進行管理を進めていかなければならないと思いますので、今年度ステップ2の確認をし、令和5、6年度をかけてステップ3の確認をしていきたいと思っております。また、この計画と並行して動いている様々な関連計画との関係性を踏まえつつ、進めていければと思います。

(2) 計画の振り返りについて（評価対象、評価方法等）

○事務局 評価対象と評価方法について5ページ「計画（第4章）の振り返りシートの作成ガイド」に基づいて説明（略）。

○委員長 作成ガイドに基本的な方向性が書いてありますが、こちらは昨年度議論をしてまとめたものです。「活動計画を作って評価をする」ということが前提ではありますが、単にできていないことを責めたりすることの評価ではなく、ポジティブな意見を出していくことが基本的な考え方になっています。作成ガイドにも「応援メッセージ」とありますが、推進委員会では目標の達成状況や今後に向けたアドバイスを出していくことがポイントになります。それは昨年度ステップ1でも行いましたし、今年度はステップ2で同じように進めていきます。これから事務局にステップ2について説明いただきますので、「もっとこうしたほうがいい」「なぜそうなっているのか」等を確認しながらアドバイスをお願いします。何か確認等ありますでしょうか。

○委員 評価理由・課題事項のところ、「今後の進め方」という項目が昨年度あったと思いますが、今年度なくなった理由は何ですか。また振り返っていて感じたのですが、昨年度推進委員会の応援メッセージで提案したアドバイスの進捗状況を伺いたいです。たとえば、広報紙ふれあいの配布方法について考えた方がよいというアドバイスをしたことについて、その後どのようになったのか、アドバイスしたことに対するコメントをいただくと意見を出した意味があるのではないかと思います。ステップ2の評価とは別になると思いますが、参考になると思うのでご検討いただきたいです。

- 事務局 二点ご質問いただきました点ですが、まず一点目は振り返りシートにおいて、上部にある項目のうち「評価理由、課題事項」の枠にあった「今後の進め方」をなくした理由についての質問です。ステップ1の報告書を作成した令和3年度はすでにステップ2の期間に入っており、令和3年度に取り組んでいたことについて「今後の進め方」として記載しました。今年度はステップ2の最終期間であり、今後の取組みについて具体的に記載できる検討等を行っていなかったため、削除いたしました。二点目のステップ1の応援メッセージとして推進委員のみなさまからいただいたアドバイスについては、現状で取り組んでいるものについては記載しています。もし項目として記載が必要でしたら、その点も踏まえて振り返りの項目に追記して作成したいと考えております。
- 委員 「今後の進め方」については理解しました。アドバイスの取扱いについてはぜひそれを踏まえて振り返っていただきたいと考えます。
- 委員長 「今後の進め方」の項目が抜けた点について、事務局の言う通り、昨年度ステップ1の評価段階ですでにステップ2の期間に入ってしまったが、今年度はまだステップ2の期間内のため、今回の応援メッセージを踏まえて、次のステップへの行動としてつないでもらいたいと思います。ほかに何かご意見はありますか。
- 事務局 アドバイスに対する現状について、振り返りシート内に項目を追記すると申しましたが、この振り返りシートはステップ2の振り返りとなっており、アドバイスはステップ1に対するものなので、シートのまとめ方と齟齬がないような記載方法等について検討が必要かと考えております。
- 委員長 また進めていく中で感じるものがあれば意見として出していただいて構いませんので、まずはステップ2の振り返りを進めていきたいと思います。基本目標1、2、3というのがありますが、本日は基本目標1を、次回は基本目標2～3を進めていきたいと考えています。まずは計画がどのように進んでいるのか、またなぜ進んでいないのか等の事務局からの説明の後に意見をいただきたいと思います。

(3) ステップ2の振り返りシートの内容確認について

- 委員長 議事の5番目の(3)ステップ2振り返りシートの内容確認について、事務局から説明をお願いします。
- 事務局 説明(略)。(基本目標1 「地域を支える人づくり」より(1)地域の福祉情報。ボランティア情報をわかりやすく発信する)
- 委員長 ここは情報発信というところなので、非常に大事なところになると思います。かなりホームページやSNSなど電子媒体の活用を進めているという説明がありました。ここはステップ1からかなり意識して進めておられて、進んできているという印象です。紙媒体においても、編集経験のある方が広報委員として入られて、実際にアドバイスをしてくださっているのですね。電子媒体は更新が多いことが重要とのことで、更新頻度を上げる努力をされています。一方で地域社協では、Twitterが得意なところはたくさん投稿していますが、苦手なところはなかなか更新がされないという点で、評価が下がっているという説明でしたが、まずは使って発信してみることが大事だと思います。次のステップを考えると、発信したものがどれくらい地域に伝わった

かが気になります。このような点がステップ3にも関わってくると思いました。しっかり情報発信はされているので、それを地域の人がどの程度受け止めているのかという点が気になりました。

もう一点、どういう情報が伝わりやすいのか、紙媒体が望ましいもの、電子媒体が望ましいもの、どちらでもよいものがあると思いますが、実際発信してみて、この情報は紙媒体が望ましい、こちらは電子媒体が望ましいということが見えてくるとよいのかと思いました。あとイベントの情報を流すことも大事ですが、地域の課題を流すということがあってもよいと思います。今地域でこのようなことが起こっているので、みんなで考えてみませんか、協力しませんかということも大事になってくると思います。ステップ3に行くときにぜひ検討してみてください。そのような発信についても考えていけるとよいと思いました。委員から何か発言がありましたらお願いします。

○委員 伝達の方法についてなんですが、私は時間があるとだいたい朝にFMラジオをつけて聞いています。最近も自分の所属する地域社協の代表が、防災のことでこれから中学校の生徒の力を借りるため、若いうちから育てていきたいということで、自主防災の活動の一環で中学校の授業のお手伝いに入るので、「どうしてこうなったのかという成り立ち」と「これからの予告」、「防災の月例会議もやっていますが、実際に小学校と中学校の両方を舞台にして、年に1、2回でも忘れないように地域の皆さんと全員でかかわれたら」という思いを込めて、どなたでも参加できますというメッセージを発信していました。私は代表がFMに出演することを知りませんでした、活動の内容を知っている自分自身もFMを聞いて改めて活動を知ることができたので、何人かはわかりませんがFMを聞いて一人でも興味関心を持って、出かけてくださる方がいるとうれしいなと思いました。

○委員長 今の委員のお話を受けて、事務局から何かありましたらお願いします。

○事務局 FMでの発信は現状なかなかできていないと感じております。午後1時の時報で地域の団体の方に歌っていただいた市民社協のジングルをだいぶ前から流していただいています。これは市民社協という団体を知っていただく目的で実施していますが、市民社協として「このようなイベントをやっているので参加してください」という発信はFMでできていないので、今後実施できるとよいと思います。

○委員 振り返りシートには特別記載がないので、実施されているかわかりませんが、広報紙ふれあいの広報委員が新しい体制となったということで、広報委員としてどのような評価をしているのか、また広報委員内部の評価だけでなく、ボランティアセンター武蔵野運営委員など広報委員以外の委員に話を聞くことをぜひやった方がよいと思います。そうしないと客観性が出てこないでしょうから。それから、同じような点でホームページを更新してどのような変化があったのか、閲覧数をチェックするとか、SNSのフォロー数とか、数値やデータにもう少しこだわって出していった方がよいと思います。閲覧数やフォロー数は把握しやすいし、ふれあいについてはメインの広報手段ですから、いろんな意見を集約してみてもよいと思います。もうちょっとそのようなことに取り組んだ方がよいと思います。

○委員 前の方と意見が似ているのでお話をさせてください。今日の会議に出て、市民社協は職員の皆さん出席なさるし、すごい勉強会をしているなと思うのですが、地域社協

の人たちがどれだけこのようなことがわかっているかが一番問題だと思っています。現在計画の中間地点で、自分たちが最初に掲げたテーマをちょうど見直す時期にあると思うのです。これを今どれだけ達成しているか、あと2年間でどれだけがんばれるか、無理な原因は何なのか、たとえば市民社協職員が地域社協の会合に出てきて、このことについて話して、みなさんから質問も受けるなどしてはどうでしょうか。そうしないと、皆さん地域別の計画をつくったきりで忘れてしまっているのではないかと思います。最後に5年前にこれを作ったねとなってもしょうがないと思います。市民社協の皆さんと私達推進委員だけで勉強していてもしょうがないのではないかと思います。今は大事な時期ですから、なんとか踏ん張るとか、問題点があるなら探すなど、これを始めたからにはやらなければならない運命にあると思います。アンケートをとってまとめるだけでも良いと思います。やりたいけれどどうすればよいかと考えている地域住民も多いと思います。事務局の皆さんには地域に出て、そのような思いを汲んでほしいと思います。

○**委員長** お二人の委員の発言を受けて、事務局から何かありますか。

○**事務局** 広報関係は、ステップ3に向けて試しながら進めているところです。そのため、評価はこれからだと思っています。実際にみなさまのご意見を聞くこともそうですし、市の計画も今後進んでいくので、市民社協に日頃かかわっていない方の声も拾っていきたくて考えています。そのような人々が知ってくれるようになってきたのか、変わっていないのか、SNSもいろいろつながりのなかで新しい人につながっていくこともありますので、情報をいかに拡散できるかが肝であると思っています。評価についてはおっしゃる通り今からだと思っていますので、ステップ3に向けて具体的な方法も含めて作っていきたくて思います。

もう一つの地域社協のエリア別計画の進捗状況に関して、取り組みずにいる点についてのご意見ですが、昨年度、各地域社協がエリア別計画の目標を一度振り返る機会を設けてはいます。取り組みずにしたことに対して具体的にどうするかということについては詰め切れておらず、またそのことに対して、市民社協としても特別に支援はできていないのが現状です。今年度地域社協の助成金を交付する際に、各地域で立てた目標を記載した事業計画書を配布し、その目標を見ながら、今年度どれに力を入れるかを書き込める様式へ変更しました。今後、各地域社協のエリア別計画や目標に対して取り組みずにいる点について、推進委員会で出た意見を13の地域にフィードバックする方法として代表者連絡会や個別の役員会・運営委員会などを活用するなど、地域社協の皆さんと相談しながら、1つでも振り返りができるように各地域で取り組めることを考えていきたくて思います。

○**委員長** 一つ目の意見について、計画の進捗を数値で出していくという点で、SNSやホームページのアクセス数等は、年度ごとの比較がしやすいかと思っています。このようなデータは出せますか？

○**事務局** 事業報告書にてホームページ（トップページ）のアクセス数を掲載していますので可能です。またSNSの投稿数も同様に掲載しており、フォロワー数もお示しできると思います。

○**委員長** 示していただけるとこれだけ進んだとイメージをつかみやすいと思いますので、ご検討ください。二点目の計画の振り返り、見直すタイミングについてもとても重要で、計画策定や振り返りを一生懸命やっても、地域社協のメンバーに伝わっていないということはありません話だとお話を聞いていて思いました。うまく計画を見直すしかけをどう作るかが大事だと思います。地域社協別地域福祉活動計画は基本的に評価をしないということになっていますが、気づいてもらうことはあってもよいのではないのでしょうか。数年前につくった計画を見直すしかけがあると、こうだったなと気づく場面が出てくれば、「やっていないからやらなくては」や「コロナ等で忘れていた」という部分もあると思うので、そういう気付きを促すためにしかけを組み込んでもよいのではないかと思います。具体的な方法は今のところ思いつきませんが、現在ステップ2の振り返りをしているということもありますので、伝えていくことで、計画を振り返るきっかけになればよいと思います。取組み1の柱で何かほかにご意見はありますか。

○**委員** 評価項目について、私は市民社協がやっていることはいいと思いますが、地域社協の取組みについてはたとえば(1)の取組み「③WEB媒体による情報共有を行いましょう」のところでTwitterアカウントを開設したことなどが挙げられ、評価が3となっていますが、私たちの年代でTwitterをやっている人はほとんどいないので、開設しただけでもすごいと思いました。また、想定される実施主体として、「ボランティア団体」と記載されておりますが、ボランティア団体に関する取り組みが書かれていないように思います。市民社協で情報を取るのが難しいかもしれませんが、評価に入れなくてよいのかと思いました。それぞれの項目でよい取り組みをしている団体があれば、評価も変わるのではないかと思います。

○**委員長** ただ今の発言に対して、事務局から何かありますでしょうか。

○**事務局** ボランティアセンターに登録している団体については、コロナ禍で登録団体がどのような課題を抱えているかアンケートを取っています。情報の発信に課題があると回答した団体はかなり多くあり、各団体でホームページやSNSを開設することは難しいので、市民社協のホームページ内に登録団体がイベントの告知やメンバーの募集をできるページを設けました。今後の方向性としては、地域社協のSNS開設のように、ボランティア団体向けの支援も少しずつ進めたいと、ボランティアセンターの小委員会の中でも出ています。まだ具体的に報告できる段階ではありませんが、今後の支援策として入ってくると考えております。

地域社協のツイッターの項目を3とすにあたり、事務局内でも迷っていましたが、ステップ2の評価基準が「WEB媒体での情報発信は常に最新のものになるよう更新しましょう」であったため、委員のおっしゃる通り開設されたことは素晴らしいことだと考えておりますが、更新頻度が少ない地域もあるため、このような数値としました。応援メッセージへの書き方や評価は公表いたしますので、ぜひ委員のみなさまの応援メッセージや評価についてのご意見をお願いいたします。

○**委員長** 事務局から意見がありました。適切な伝え方などについてアドバイスがあればと思いますがいかがですか。

- 委員 私が心配しているのは、できる人たちで集まった方が早くできるし楽しいので、できない人たちの意見を聞かなくなることです。できない人たちも意見は持っています。パソコンができない人でも良い意見を持っているのに、パソコンができないという理由で広報から外していく流れになってしまうのです。私はそういう人の意見も取り入れてほしいです。あまり進むことにこだわるとプレッシャーを感じる人もいます。
- 委員 地域性にもよりますね。ふれあいが隔月発行となりましたが、以前と比べ、内容がよくなって見やすくなっていると感じています。取り上げる内容も身近な地域でこのような人が活躍しているという記事も多くなっていて、見ていて楽しくなってきました。年齢層によってふれあいを情報源にしている人も多いと思います。ふれあいも見やすいと感じる年齢層がいるのだと思って、力を入れてほしいと思います。また、SNSについて、この間新聞で、「自治会のデジタル化」の話が取り上げられていました。いずれ回覧板など地域の中でもさらに社会のデジタル化が進むのだとも思いますが、ついていける年代層や得意不得意等もあると思うので、お手伝いできる若い世代の方が入れれば、さらに盛り上がると思います。
- 委員長 事務局はこのようなご意見をもとに応援メッセージを書けそうですか。
- 事務局 ③について、評価を4にして、応援メッセージには「WEB媒体は更新頻度が高い方が好まれるので今後そのように進めていけるといいですね」というニュアンスのメッセージでまとめるということでしょうか。
- 委員長 私は3が良いかと思います。3の評価は「ステップ目標に着実に進んでいる」であり、マイナスの評価ではありません。すごく進んでいるというわけではないのは事実なので、その点は伝えた方がよいと思います。ただ、そのときに「進んでいないからダメ」なのではなく、Twitterを開設したことを評価したうえで、更新頻度をさらに上げていきましょうというメッセージを添えれば良いと思います。ほかは4が並んでいるので、振り返るうえでも元々3の評価であるので3でよいと思います。
- 委員 評価の数字で一喜一憂することでもないと思うので、振り返ったうえでつけた評価であればそれでよいと思います。これまでの話と違う点で、(1)の①について、ステップ2の評価基準が「手に取って読んでもらえるよう」と書いてありますが、この手に取ってもらっているかについて、本当に手に取ってもらう頻度や回数が上がっているかこだわりたいと思います。点数は何点でも構いませんが、広報の原点である「手に取って読んでもらっているか」を何かしらの形で工夫して数値化してほしいと思います。
- 委員長 貴重なご意見をいただきました。基本目標1の「(2)より多くの人々が地域の福祉に関心を持つ機会を増やす」について、進めていきたいと思います。
- 事務局 説明(略)。(基本目標1 「地域を支える人づくり」より(2)より多くの人々が地域の福祉に関心を持つ機会を増やす)
- 委員長 基本目標1の(2)と(3)内容は結構つながっているのでそのまま説明をお願いします。
- 事務局 説明(略)。(基本目標1 「地域を支える人づくり」より(3)地域活動の担い手を増やす)

- 委員長** 後半で説明いただいた点は、まさに「人づくり」「担い手づくり」という点かと思えます。まず一点、(2)の①に記載の「グラフィックレコーディング」とは何ですか。
- 事務局** 会議の記録を文字だけでなく、イラストを用いながらその場で書き出していく方法です。そのような技法ができる専門の方にお越しいただいて実施しました。
- 委員長** 総じて言うと、コロナ禍で全体的に3年間押さえつけられていた部分もあるかと思えますが、今年度は芽吹いている感じがしますか。本日の会議も皆さんマスク着用の上で実施していますが、活動そのものが中止となる雰囲気ではないようですね。まさに担い手の掘り起こしを進められていると思えますので、評価2が多いのが気になりました。2でなくてもよいのかと思えます。たとえば、(2)の②について、評価基準に焦点を当てるとできていないから2であるということはわかりますが、今までコロナ禍で動いていなかった分が動いているのであれば、評価3でも良いかと思えます。そのような評価のつけ方についてはいかがでしょうか。
- 事務局** 評価3の基準が「着実に進んでいる」のため、着実に進んでいるかわけではないと思ひ、2としました。正直なところ、ステップ2はコロナ禍で実施するにあたり、難しいステップであったと感じました。コロナ禍ということもあり、これまでやってきたことを継続していくことで精一杯という点もありますが、これまでと違うことが試せなかった点が評価につながっていると思ひます。
- 委員長** 私が気になった点ですが、(2)②のステップの内容に対する採点理由がコロナ禍など物理的な要因で取り組みできなかったからなのか、取り組み方がわからなかったのかで判断が異なると思ひます。理由がどちらなのかを知りたいと思ひたのですがいかがですか。
- 事務局** 後者の「取り組み方がわからなかった」だと思ひます。
- 委員** 担い手を増やすことは永遠のテーマだと思ひるので、4になることはなく、4に向かって挑戦し続けるのだと思ひます。それにはどうやって増やしていったかという具体的な事例を冊子上にまとめて、読んでいただくとよいのではないかと思ひます。私は自宅で小物づくりや麻雀などをやる中で集まった人たちに、地域社協の活動を手伝ってくれないかと声をかけて協力者を増やしています。
- 委員** 私は担い手を増やすことは課題であると思ひますが、特にこの数年間はコロナ禍で活動が停滞しているのが原因なので、評価は2か3になると思ひます。課題があるというよりは活動そのものがやりにくかったというのが原因かと思ひます。この秋頃から地域社協やコミセンなどで地域の事業を活発にしていかなければいけないと思ひますので、これからステップ2の内容をできるようにしていけばよいと思ひます。
- 委員** (2)の「②子どもが地域福祉に出会う機会を増やしましょう」という点について、現在は福祉学習やボランティアキャンペーン等が該当する事業なのだと思ひますが、子どもたちに対してアプローチする方法やプログラム自体はでき上がっているのではないかと思ひますがいかがでしょうか。
- 委員長** 3名の委員からの意見に対して事務局からお願いします。
- 事務局** 福祉学習についてですが、「まちで高齢者と出会った際や障がいのある方と知り合った際に、どのような関わり方をした方がよいか」や「どのようなことが手伝え

るか」ということについては紹介していますが、「一緒にこのまちで生活している地域住民である」というところまでは伝えきれていないため、もう少しプログラムを検討する余地があるとお話を伺って思った次第です。ボランティアセンターでは、コロナ禍でボランティア依頼はかなり少なくなりましたが、働いている方で時間ができたからボランティアをしたいという方が以前より増えました。コロナにより生活スタイルが変わったということが一つの要因であると思いますが、今の取組みや課題に対しての何かしらのアプローチを検討できるきっかけになるのではないかと考えています。

○**委員長** コロナ禍で新たに増えてきたものがあると思います。たとえば在宅ワークが増える中で地域との接点を求めている人も出てきたと思いますし、情報の提供の仕方、海外と日本をつなぐオンラインのようなツールもコロナがなければ、あまりなかったと思います。情報の提供方法がコロナで革命的に変わってきたので、マイナスの側面だけでなく、プラスの側面にも組み込んでいく必要があるということを経済局の話聞いて感じました。人材育成と情報提供を考えると、人材面でもコロナ禍で新たに出会えたことも大事だと思います。前にご発言いただいた委員と同様、本当はできていたことがコロナで動けなかったということも理由にあると思います。当初予定していたことを着実に進めていくことをベースにしながら、感染状況が落ち着いてきたら新しいことを進めていく等、コロナで停滞した部分をまずは戻すことが大事だと思います。一方で、コロナで新しく出てきた芽を摘まないように育てていくことも大事だと思います。評価4をめざして、地域の良い実践をどう共有していくかが大事だと思います。本日の予定時間はもうあまりない状況ですが、今後の進め方はどうでしょうか。事務局お願いいたします。

○**事務局** 予定としては、次回基本目標2と3への意見をいただければと考えておりました。本日伝えきれなかったご意見は、意見集約シートをお送りしますので、次回委員会までに、みなさまからの意見を集めさせていただき、次回の委員会にてお示ししたいと思います。

○**委員長** それでは、十分にご意見をいただけなかった点について意見がありましたら、事務局までお送りください。議論が不十分でしたら、次回基本目標1の最後から始める等、意見集約した後、事務局と進め方について相談したいと思います。いずれにしても次回は基本目標2と3を中心に進めたいと思います。

6 事務局からの連絡事項

○**事務局** 次回の日程調整表を9月16日（金）までに事務局までご提出ください。本日意見が出しきれなかった点について、様式を作成して、委員宛にお送りしますので、返信願います。

7 次回日程について

第2回推進委員会：令和4年11月開催 武蔵野市民社会福祉協議会 会議室

※日程調整表にて調整後、開催通知送付予定

(午後4時4分 閉会)